故障かな？と思ったら・・・

症　状	点　検	処　置
電源が入らない。	ACアダプタが正しく差し込まれていますか？	ACアダプタを正しく差し込んでください。
送信機と受信機が近くても受信できない。受信ランプ④は消灯。	グループスイッチ⑩、チャンネルスイッチ⑪が送信機と同じ設定になっていますか？	グループスイッチ、チャンネルスイッチを送信機と同じ設定にしてください。
送信機と受信機が近くても受信できない。受信ランプ④は3回点滅の繰り返し。	グループスイッチ⑩、チャンネルスイッチ⑪が割当て外のところに設定されていませんか？ 下記以外の設定はできません。 グループ1～3：チャンネル1～4 グループ4：チャンネル1 グループA：チャンネル1～4、・ なお、グループ1～3のとき、チャンネル「・」を選択するとスキャンモードになります。	グループスイッチ、チャンネルスイッチを正しく設定してください。
送信機と受信機が近くても受信できない。受信ランプ④は速い点滅。	トーンが送信機と同じになっていますか？	トーンスイッチ⑦で送信機と同じトーンにしてください。
送信機と受信機が近くても受信できない。受信ランプ④は点灯。	外部アンテナを接続していないのに、ANT切換スイッチ⑨が「外部」になっていませんか？	ANT切換スイッチを「内部」に設定してください。
	外部アンテナを接続しているのに、ANT切換スイッチ⑨が「内部」になっていませんか？	ANT切換スイッチを「外部」に設定してください。
	外部アンテナを接続するとき、外部接続コネクタの接続を誤っていませんか？	内部導体をⓕ、外部導体をⓔに接続してください。
送信機が離れると、雑音が多くなる。	受信感度スイッチ⑧が「Hi」になっていませんか？	受信感度スイッチを「Lo」にしてください。
	テストスイッチ⑥が「有」になっていませんか？	電源を切って、テストスイッチを「無」にしてください。
内部スピーカから音が出ない。	ショートバーが外部接続コネクタ⑫に接続されていますか？	ショートバーを外部接続コネクタの「内部SP（＋）」のⓒⓓに接続してください。
外部スピーカから音が出ない。	正しく接続されていますか？	正しく接続してください。
ハウリングする。	音量を上げ過ぎていませんか？ マイクロホン（送信機）を本機に近づけ過ぎていませんか？	音量を下げるか、マイクロホン（送信機）と本機を少し離して使用してください。

トーン周波数表

1	14.80 kHz
2	14.75 kHz

TOA

取扱説明書

ワイヤレススピーカ　WT-1150

このたびは、TOAワイヤレススピーカをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

安全上のご注意

⚠ 警告　誤った取り扱いをしたとき、人が死亡または重傷に結びつく可能性のあるもの。

水にぬらさない
本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。
禁　止

指定外の電源電圧で使用しない
表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。
禁　止

電源コードを傷つけない
電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。
禁　止

万一、異常が起きたら
次の場合、電源スイッチを切り、ACアダプタを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき (心線の露出、断線など)
- 音が出ないとき

注　意

内部を開けない、改造しない
内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない
こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。
禁　止

雷が鳴ったらさわらない
雷が鳴り出したら、ACアダプタにはさわらないでください。
感電の原因となります。
禁　止

TOA株式会社

周波数表

グループ / 周波数（MHz）	1	2	3	4	A
322.025			C31		CA1
322.050	C11				
322.075		C21			CA2
322.100	C12				
322.125		C22			
322.150			C32		CA3
322.250	C13				
322.275		C23			
322.300				C41	CA4
322.325			C33		
322.350	C14				
322.375		C24			
322.400			C34		CA･

※チャンネル呼称について

（例） C 3 1

- C：300 MHz帯
- 3：グループ
- 1：チャンネル

仕　様

電　　源	AC100 V、50/60 Hz（ACアダプタ）またはDC12 V
消 費 電 力	8 W（AC動作時）、400 mA（DC動作時）
定 格 出 力	2 W
無線局の種類	特定小電力無線局ラジオマイク用無線設備
電 波 型 式	F3E
受信周波数	322.025 Hz～322.150 MHz、322.250 Hz～322.400 MHz（25 kHz間隔、13チャンネル）
受 信 方 式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
受 信 感 度	S/N25 dB以上（10 dBμVEMF入力、偏移±2.25 kHz） 受信（スケルチ）感度切換、Hi：10 dBμVEMF、Lo：20 dBμVEMF
トーン周波数	14.80 kHz、14.75 kHz（2チャンネルのうちの1チャンネル）
出力音圧レベル	83 dB（1 W、1 m）（内部スピーカ）
総合周波数特性	150～6,000 Hz（携帯型送信機→ワイヤレススピーカ） 130～7,000 Hz（卓上型送信機→ワイヤレススピーカ）
ディエンファシス	50 μs
外部アンテナ入力	75 Ω、不平衡（アンテナ供給電源：DC6 V、6 mA）
外部スピーカ出力	8 Ω、2 W（外部スピーカ使用時は内部スピーカ用ショートバーを外すこと。）
機　　能	チャンネルスキャン機能、低域カット機能
使用温度範囲	−10～+40℃
仕 上 げ	ABS樹脂、ライトグレー（マンセルN8.0近似色）
寸　　法	100（幅）×38（高さ）×175.1（奥行）mm（突起部含む）
質　　量	510 g（ACアダプタ含まず）

※ 本機の仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

- ACアダプタ（コード長3 m） …… 1
- 設定用ドライバ …… 1
- 据置金具 …… 1
- 壁取付金具 …… 1
- 小ねじM3×6 …… 2
- タッピンねじ4×25 …… 2

商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

TOAお客様相談センター

商品の内容・組み合わせ・取り扱い方法や修理に関するご相談にお応えします。
受付時間 9：00 ～ 17：00（土日、祝日除く）

フリーダイヤル（無料電話）
TEL. 0120-108-117
TEL.（0797）72-7567
FAX.（0797）72-1090

TOAホームページ　http://www.toa.co.jp/

133-07-190-8C

⚠ 注意

誤った取り扱いをしたとき、人が障害または物的障害に結びつく可能性のあるもの。

ぬれた手でACアダプタをさわらない
ぬれた手でACアダプタを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。
禁　止

電源コードを引っ張らない
ACアダプタを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずACアダプタを持って抜いてください。
禁　止

設置場所に注意
湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。
注　意

音量は最小に、相手の声を聞きながら徐々に上げる
電源スイッチと音量ボリュームが兼用になっています。音量ボリュームは相手の声を聞きながら、徐々に大きくするようにしてください。
音量ボリュームが上がっていると、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
注　意

ＡＣアダプタは専用品を
専用品以外のものを使用すると、火災の原因となることがあります。
注　意

ＡＣアダプタやコンセント部の掃除を
ACアダプタを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、ACアダプタは根元まで差し込んでください。
注　意

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意
お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、ACアダプタをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となることがあります。
禁　止

概　要

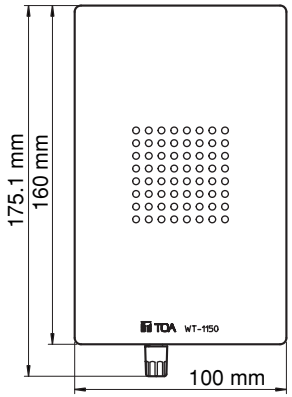
本機は、特定小電力無線局のC型ワイヤレスマイクロホン用に割り当てられた322MHz帯の電波を利用した、アンテナ・受信機・アンプ・スピーカー体型のワイヤレススピーカです。

使用上のご注意

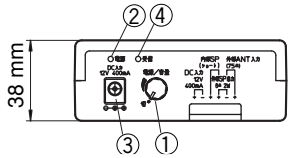
- 蛍光灯、デジタル機器、パソコンなど高周波雑音を発生する機器からできるだけ離して使用してください。
- ケース外部の汚れは乾いた布で軽くふいてください。ベンジン、シンナーなどは絶対に使用しないでください。
- 本機の周囲に金属物など電波をさえぎる物を置かないでください。正しく受信できないことがあります。
- 床に落としたり、かたいものに当てないでください。故障の原因となります。

各部の名称とはたらき

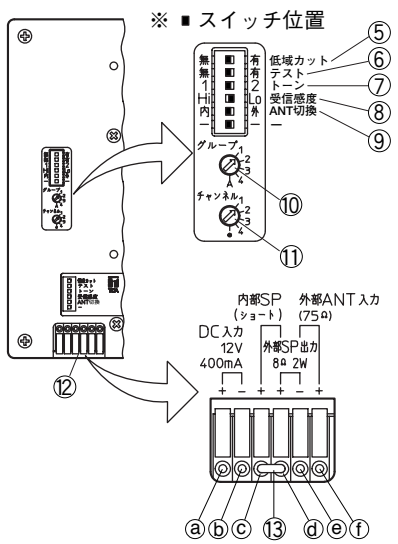
［上面］



［前面］



［下面］



① **電源スイッチ付きボリューム**

② **電源ランプ（緑）**

③ **DC入力ソケット**

④ **受信ランプ（黄）**
- ・点灯：電波を受信しています。
- ・速い点滅：トーンが一致していない電波を受信しています。ただし音声は出力されません。
- ・3回点滅の繰り返し：グループスイッチ⑩、チャンネルスイッチ⑪が割当て外のところに設定されています。

⑤ **低域カットスイッチ**
「有」にすると、400 Hz以下の低域をカットします（6 dBオクターブ）。人の声を拡声するときなどに、明瞭性が向上します。（工場出荷時は「無」）

⑥ **テストスイッチ**
電源を切った後「有」に設定し、再び電源を入れると、モニタモード（最高感度で受信した様子を出力するモード）になります。確認後は一度電源を切り、「無」に戻してから使用してください。（工場出荷時は「無」）

ご注意
- 電源が入った状態でスイッチを切り換えないでください。電源を切ってから切り換えないと、モニタモードへ正しく切り換わりません。
- 「有」に設定した状態では、雑音や混信妨害などの音が出力されますので、音量を小さくして使用してください。

⑦ **トーンスイッチ**
使用する送信機と受信機のトーンを同じ設定にしてください。（工場出荷時は「1」）

⑧ **受信感度スイッチ**
「Hi」にすると、「Lo」のときより通達距離が長くなります。ただし、「Lo」のときより、弱い電波を受信しているときに雑音が多くなります。拡声する場合は「Lo」に設定してください。（工場出荷時は「Lo」）

⑨ **ANT切換スイッチ**
本機はアンテナを内蔵しています。受信状態をより安定させたい場合など、外部アンテナを接続するときは、「外」に設定してください。（工場出荷時は「内」）

⑩ **グループスイッチ**
周波数表を確認の上、付属の設定用ドライバで送信機と同じ設定にしてください。（工場出荷時は「1」）

⑪ **チャンネルスイッチ**
周波数表を確認の上、付属の設定用ドライバで送信機と同じ設定にしてください。（工場出荷時は「1」）

⑫ **外部接続コネクタ**

⑬ **ショートバー**

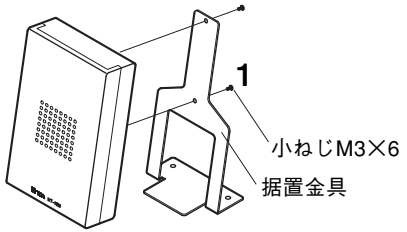
設置のしかた

■ 卓上などに置いて設置する場合

1. 付属の据置金具を付属のねじM3×6（2本）で本機に取り付けます。

ご注意
指定サイズ以外のねじを使用しないでください。故障の原因となります。

2. 本機を水平な場所に設置します。

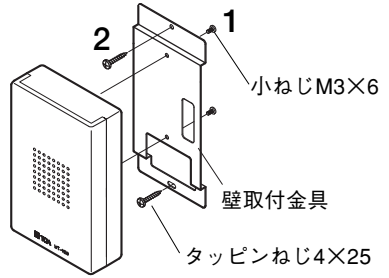


■ 壁などに設置する場合

1. 付属の壁取付金具を付属のねじM3×6（2本）で本機に取り付けます。

ご注意
指定サイズ以外のねじを使用しないでください。故障の原因となります。

2. 壁取付金具を付属のタッピンねじ4×25（2本）で壁などに取り付けます。



操作のしかた

1. ACアダプタ（付属品）のDCプラグを、本機のDC入力ソケット③へ差し込んだのち、ACアダプタを電源コンセント（AC100 V）に差し込みます。

2. トーンスイッチ⑦、グループスイッチ⑩、およびチャンネルスイッチ⑪を設定します。

3. 低域カットスイッチ⑤を設定します。

4. 電源スイッチ付きボリューム①を時計方向に回して電源を入れ、ボリュームを適切な音量になるように調節します。

5. 使用後は、電源を切ってください。

上手な使いかた

- 同一場所で同時に使用できるチャンネル数は、グループ1～3では4チャンネル、グループ4では1チャンネル、グループAでは5チャンネルです。同時に使用するときは、同一グループの中でチャンネルを設定してください。複数のチャンネルを同時に使用すると、1チャンネルのみの場合に比べて通達距離が短くなることがあります。
- 近くで本機と同じC型ワイヤレスマイクロホンを使用していると、チャンネルによっては妨害を受けることがあります。そのときは、使用するチャンネルを変更してください。
- 本機には、スキャン機能があります。グループ1～3でチャンネルを「・」にするとスキャンモードになります。スキャンモードでは、受信中の電波が弱くなり受信しなくなると同時に、自動的に新たな受信可能な電波を探して受信します。複数の送信機が異なるチャンネルで、交互に送信するときに使用します。

ご注意
- 1つの送信機を使用している（受信している）ときは、ほかの送信機は使用できません（受信しません）。
- 複数の送信機が同時に送信したときは、最初に送信（受信）した送信機の電波が優先されます。
- グループ4とグループAにはスキャン機能はありません。

接続のしかた

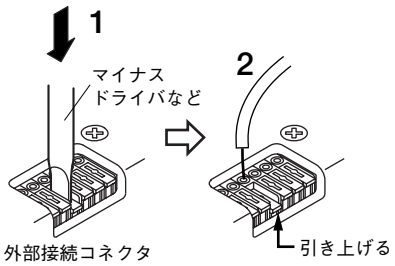
■ 外部接続コネクタについて

● 外部接続コネクタのピン配置（「各部の名称とはたらき」参照）

ⓐ：DC入力（＋）　　ⓓ：内部SP（＋）、外部SP出力（＋）
ⓑ：DC入力（－）　　ⓔ：外部SP出力（－）、外部ANT入力（－）
ⓒ：内部SP（＋）　　ⓕ：外部ANT入力（＋）

● 外部接続コネクタへの接続のしかた

1. マイナスドライバなどで、外部接続コネクタ⑫を押し込んでください。→ロックされます。
2. ケーブルを差し込んだ後、引き上げてください。→ロックが解除され、ケーブルが固定されます。
3. ケーブルを軽く引っ張って、抜けないことを確認してください。



● 使用可能な電線

単線　：φ0.4～1.2 mm（AWG26～16）
より線：0.3～0.75 mm²（AWG22～20）
（素線径φ0.18 mm以上）

■ 接続のしかた

● 電源の接続

- 外部電源（12 V）のプラス側をⓐ、マイナス側をⓑに接続してください。
- 指定の電線の外被を約10 mm取り除いて、接続してください。

ご注意

- （＋）、（－）を逆に接続しないでください。
- ショートさせないでください。故障の原因となります。

● 内部スピーカの接続

工場出荷時には、内部スピーカから拡声するようになっています。（ⓒ、ⓓにショートバーが接続されています。）

● 外部スピーカの接続

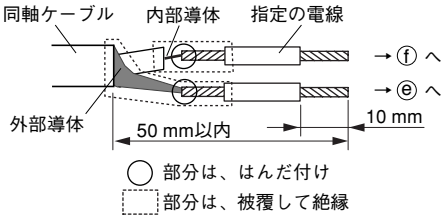
- 外部スピーカで拡声するときは、内部スピーカ用のショートバーを外し、ⓓ、ⓔに外部スピーカを接続してください。
- 指定の電線の外被を約10 mm取り除いて、接続してください。

ご注意

- 内部スピーカと外部スピーカは同時に使用できません。
- 外部スピーカは、インピーダンスが8 Ωで、定格入力が2 W以上のものを使用してください。
- （＋）、（－）を逆に接続しないでください。
- ショートさせないでください。故障の原因となります。

● 外部アンテナの接続

アンテナYW-1102を接続することができます。外部アンテナを使用するときはⓔ、ⓕに接続し、ANT切換スイッチを「外」にします。ただし、同軸ケーブルの加工が必要です。以下の手順で加工してください。



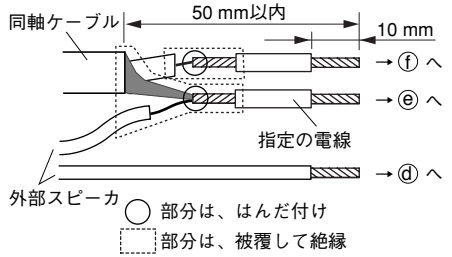
1. 同軸ケーブルの外被を取り除き、外部導体を引き出して、よじります。
2. 同軸ケーブルの内部絶縁体を取り除き、内部導体を引き出します。
3. 同軸ケーブルの内部導体、外部導体にそれぞれ、指定の電線をはんだ付けし、絶縁テープで絶縁します。ケーブルの長さは、できるだけ短く（50 mm以内）してください。
4. 指定の電線の先端10 mmのところで外被を取り除いて、ⓔ、ⓕに接続してください。

ご注意

- 同軸ケーブルの接続は必ず内部導体をⓕ、外部導体をⓔに接続してください。
- ショートさせないでください。故障の原因となります。
- アンテナYW-1102は1本しか接続できません。
- アンテナYW-1102はブースタアンプありで使用してください。
（工場出荷時はブースタアンプありに設定されています。）

● 外部スピーカと外部アンテナを同時に接続するとき

ⓔは外部SP出力（－）と外部ANT入力（－）が共通になっています。以下の手順で加工してください。



1. 同軸ケーブルの外被を取り除き、外部導体を引き出して、よじります。
2. 同軸ケーブルの内部絶縁体を取り除き、内部導体を引き出します。
3. 同軸ケーブルの内部導体に指定の電線をはんだ付けします。同軸ケーブルの外部導体と外部スピーカ接続ケーブル（－）を指定の電線にはんだ付けします。上図のように絶縁テープで絶縁します。ケーブルの長さは、できるだけ短く（50 mm以内）してください。
4. 指定の電線の先端10 mmのところで外被を取り除いて、外部アンテナⓔ、ⓕに接続してください。
5. 外部スピーカ用ケーブル（＋）の先端10 mmのところで外被を取り除いて、ⓓに接続してください。